



洗足学園音楽大学



大学院リサイタルシリーズ③

サクソフォーンと声の対話

2021年10月9日(土) 11:00 開演(10:40 開場)

洗足学園音楽大学 シルバーマウンテン 1F

主催：洗足学園音楽大学・大学院

☑新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
 - ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
 - ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
 - ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

～プログラム～

脇屋敷 美里（声楽） ピアノ:小林千夏

- ・木下牧子(1956-)／木下牧子集 I より

ひばり

きんいろの太陽がもえる朝に

誰かがちいさなベルをおす

- ・F.ガスパリーニ／いとしい絆

Francesco Gasparini(1668-1727) // Caro laccio

- ・W.A.モーツァルト /歌劇《イドメネオ》より

Wolfgang Amadeus Mozart (1756-91) // Idomeneo

そよ風よ Zeffiletti lusinghieri

Qianyi Xiao（サクソフーン） ピアノ:中村真幸

- ・吉松隆(1953-)／サイバーバード協奏曲

I 彩の鳥

II 悲の鳥

III 風の鳥

～曲目解説～

脇屋敷 美里（声楽）

《愛する歌》の中から3曲を演奏する。この曲集は、やなせたかしの詩に、木下牧子が作曲した。詩が作られてから作曲されるまでに、約20年経っている。『ひばり』は、しみじみとした物語風の詩である。明るく歌うことにより、詩の味わいが深くなる。『きんいろの太陽がもえる朝に』は、この曲集にはしっかりとした曲が多い中で、歌うと必ず元気の出る、はつらつとした曲である。『誰かがちいさなベルをおす』この曲集は転調が少ないのが特徴だが、終曲のこの曲は、あえて転調を多用した。やなせたかしは、作曲されるまで、いい歌と思わなかったそうだ。

『Caro lacco, dolce nodo』はイタリアバロック中期の作曲家、ガスパリーニ（Gasparini, F. 1668-1727）の全5曲の独唱カンタータ。レチタティーヴォ2曲を挟んだ、3曲の Aria で構成される世俗カンタータ。最初の Aria 2曲はパリゾッティ版で有名だが、今回はバロック時代の演奏に造詣の深い、牧野正人氏のリアリゼーションによる楽譜を使用する。

『Zeffiretti lusinghieri』は、1781年に、W.A.モーツァルトが作曲した、オペラ・セリアの代表作、オペラ《イドメネオ》でイリアが歌う曲である。クレタの王、イドメネオはトロイア戦争終結後、航海中に嵐に会う。イドメネオは海神ネプチューンに「命を助けてくれる代わりに、陸に上がって、最初に会った人間を生きにえとして差し出す」と約束し、生き延びる。しかし、最初に会ったのは、息子のイダマンテだった。一方、イダマンテは、囚われの身であるトロイアの王プリアモスの娘イリアと密かに愛し合っていた。イドメネオは息子を逃そうとするが、それがネプチューンの怒りに触れ、ネプチューンは怪物を街に送り込む。街は破壊され、人々は恐れ逃げ惑う。第3幕、イリアは嵐にイダマンテへの私の愛の告白を運んでと嘆く、Ariaである。

Qianyi Xiao（サクソフーン）

「サイバーバード」協奏曲 吉松隆 「サイバーバード」協奏曲は日本の作曲家吉松隆(1953～)が1994年に作曲しました。クラシック、ジャズ、ロックなど様々な音楽ジャンルのスタイルが用いられており、一見乱雑に見えるが実際には自然とそれらが調和している。曲名の「サイバーバード」とは、吉松氏が想像した、架空のデジタル空間にいる鳥を意味している。サクソフォーンのマロディが鳥の体、伴奏のオーケストラを鳥の翼と表現しているのではないか。全3楽章に分かれており、第一楽章「彩の鳥」は鳥がデジタル空間を横断し、様々な色の断層の中をすり抜ける様を描いている。第二楽章「悲の鳥」は悲しむ鳥の歌声で夢織りを描く。また、第二楽章と第三楽章の創作活動の最中で、吉松の二歳年下の妹を病気で亡くしてしまい、その為、第三楽章「風の鳥」は鳥が風に乗って飛ぶ様子を描いているが、その想いにのせ、吉松氏の妹が鳥の様に、まるで人工呼吸装置を外し、自由に空に向かって飛び去っていった、と言う願望を表現している。

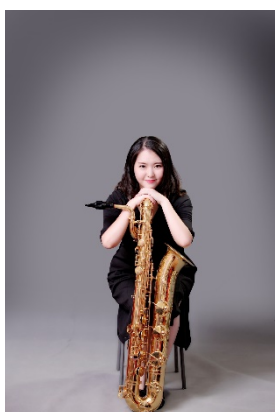
～プロフィール～

脇屋敷 美里（声楽）



埼玉県出身。洗足学園音楽大学声楽コース卒業。
世田谷ジュニア合唱団に所属。日生劇場「夕鶴」、
新国立劇場「道化師」等に児童合唱として出演。
また教育出版やベネッセ教材のレコーディングに参加。
洗足学園音楽大学コールファンタジアに所属し、
BS-TBS「日本名曲アルバム」等出演。
声楽を三縄みどり、牧野正人の各氏に師事。
洗足学園音楽大学大学院 声楽コース 声楽専攻2年
次在学中

Qianyi Xiao（サクソフーン）



上海生まれ、11歳からサクソフォーンの勉強を始める。
2008年上海音楽学院管楽器専攻に入学し、洪 竟
立氏に師事。2012年に卒業後上海軽音楽団に入団し
演奏員を務めた。2018年クロアチア世界サクソフォ
ーン大会に参加し、長年にわたり合奏の研究及び実
践を続けている。
現在池上政人、松下洋の各氏に師事。
洗足学園音楽大学大学院 器楽コース サクソフォ
ーン専攻2年次在学中